

## インストールするPC

それでは、XenServerをインストールしてみましょう。ここでは、以下にあげるスペックのPC（パソコン）に、XenServerの無償配布版であるExpress Editionのバージョン4.0.1をインストールします（表4.1）。ちなみに、Express Editionインストール後、上位パッケージにバージョンアップすることは非常に簡単です。

実際に動作が確認されているハードウェアの情報が、次のURLに集まっています。

<http://hcl.xensource.com/>

今回、XenServerをインストールするPCのスペックは、表4.2のとおりです。

### ●注意

XenServerは、マルチ・ブートをサポートしていません。少なくともインストーラは工程の中でハードディスクを1基、XenServer専用として初期化しますので、1基のハードディスクの中にパーティション単位でXenServerとほかのOSとを混在させることはできません。

GUIによるXenServerの管理ツールであるXenCenterのインストールも行いますが、これはネットワーク経由で接続したWindows上で動作します。こちらはWindowsで動作する一つのアプリケーション・ソフトウェアという位置付けですから、すでにWindowsが動作しているPCであれば、インストールおよび実行に不都合はないと思います。

XenCenterを動作させるハードウェアのスペックを表4.3に示します。今回は、表4.4のスペックのハードウェアにインストールしました。

表4.1 XenServerが動作するPCのスペック

仮想マシンをWindowsで動かしたい場合はCPUに注意が必要。

リソース	スペック例
CPU	一つ以上の64bit x86 CPU：最低1.5GHz 推奨2GHz以上のマルチ・コア。 Windows仮想マシンを利用する場合は、Intel VTまたはAMD-Vに対応していること。 準仮想化に対応しているLinuxであれば、通常のx86ベースのシステムでよい。 マザーボードのBIOSでの仮想マシン・サポート Windows仮想マシンを利用する場合はBIOSで仮想マシン・サポートを有効にする。
メモリ	最小1Gバイト、推奨2Gバイト以上。
ディスク（仮想ソフトウェア用のスペース）	ローカル・ハードディスク（PATA, SATA, SCSI）最低16Gバイト、推奨60Gバイト。
ディスク（仮想マシンに割り当てるスペース）	仮想マシン上で動作させるOSにより異なる。 例：Debianのテンプレートでは、rootに1Gバイト、swapに512Mバイト割り当てる。 RHEL 4.1 または 4.4のインストーラは、rootに8Gバイト割り当てる。
ネットワーク	100Mbpsあるいはそれより高速なNIC。 P2Vツールの利用や仮想マシンのエクスポート、インポートを行う場合は、ギガビット・イーサネットを推奨。